

参加
無料

要申込み

多文化社会における 「人間の尊厳」概念

「尊厳」概念のアクチュアリティ

近年のグローバリゼーションの進展と9.11以降の国際政治の複雑化の中、世界全体で多文化社会が浸透しているにもかかわらず、外国人・移民・難民を排除し、多様なアイデンティティを抑圧する力学がポピュリズムとして声高となっている。

このような混乱を前にして、私たちが直面しているのは、根源的な社会的価値への問いではないか。

「何が社会を新たな統合へともたらすのか」、「現代社会において統合の新たな理念はそもそも何であるのか」

この問いかけに「世界人権宣言」で謳われている「人間の尊厳」概念は一つの光を放っている。古代ギリシアに端を発し、現在でもそのアクチュアリティを失わず、さらに医療技術・科学技術に対して「尊厳」はさらに多様な役割を求められている。

多文化社会において差別・暴力を暴走させないためにわれわれは「人間の尊厳」概念に立ち返り、根源的な問いに応えていかなければならない。

2019年 **11月5日** **火** 15:00
17:00

【会場】 **名古屋外国語大学 226教室**
日進市岩崎町竹の山57

【主な対象者】 **どなたでも参加できます**

【主催】 **名古屋外国語大学現代国際学部現代英語学科**

【後援】 **名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター (WLAC)**

■ 申込み方法

当日参加も可能ですが、準備の都合がありますので、事前のお申込みをお願いいたします。右記のQRコードを携帯電話やスマートフォンで読み込んで頂くか、下記URLをパソコン等で直接入力して、申込みのフォームに必要事項を入力、送信してください。

<https://req.qubo.jp/wlac/form/20191105>



講演者

加藤 泰史 (かとう やすし)

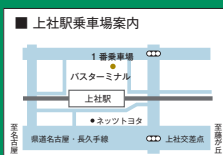
一橋大学大学院社会学研究科教授。
前日本哲学会会長。専門はカント哲学、近現代ドイツ哲学。

主要な著作として *Kant in der Diskussion der Moderne*、『尊厳概念のダイナミズム』、翻訳書として『カント全集17巻』、ナンシー・フレイザー／アクセル・ホネット『再配分か承認か』など多数。

カント哲学を中心として近現代ドイツ哲学をフィールドとして研究を行い、特にハーバーマスの討議倫理の造詣が深い。近年は「尊厳概念のグローバルスタンダードの構築」研究を国内外の研究者とともに進めている。

■ 本学へのアクセスについて ■

当日、駐車場はありませんので公共交通機関または上社駅、赤池駅からの専用バス(無料)をご利用ください。専用バスにご乗車の際は、イベントに参加する旨を運転手にお伝えください。



問合せ先 **名古屋外国語大学現代英語学科** Tel: 0561-75-1725(直通)



本イベントにおける写真撮影や録音はご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。会場では腕章を付けたカメラマンが記録用の写真撮影を行っています。本学ウェブサイトやその他の刊行物に、写真が掲載されることがありますのでご了承ください。

※会場の温度調整が難しいため、調整しやすい服装でお越しください。

Facebook

